

報告タイトル

習近平政権の軍事戦略：国連 PKO による人民解放軍のグローバル展開を中心に
Xi Jinping Regime's military strategy: Focusing on the global expansion of the People's
Liberation Army through UN peacekeeping operations

氏名(所属)

呉 浩源(九州大学大学院)
WU HAORYUAN (Graduate School of Kyushu University)

要旨(800 字程度)

国連平和維持活動(国連 PKO)は今日、国際安全保障の領域においてもっとも重要な一つの概念である。

中国が人民解放軍部隊を本格的に国連 PKO 派遣したのが冷戦後の 1992 年 2 月のことである。しかし、それを除いて、2003 年までに、中国は人民解放軍の国連 PKO への派遣は一度たりともなかった。2003 年 4 月に、中国は人民解放軍の派遣を再出発し、175 名の工兵中隊と 43 名の医療分隊を国連コンゴ民主平和国ミッション(MONUC)に派遣した。これは中国の 1992 年以來、人民解放軍派遣の再出発のシンボルだけでなく、それから人民解放軍の国連 PKO への派遣パターンが定着し始まった出来事である。つまり、2003 年以後から、中国が国連 PKO に工兵、運輸および医療部隊の陸軍後方保障部隊を中心とする「三者結合」派遣パターンが形成されつつあった。

だが、2013 年以後、習近平政権が発足したから、中国の国連 PKO への人民解放軍派遣は、前述の「三者結合」パターンから軍・兵種派遣の「多元化」の方向へ変わっていくようになる。転換点としては、2013 年 12 月に、中国は国連マリ多元的総合安定化ミッション(MINUSMA)に瀋陽軍区からの 170 名の、人民解放軍陸軍第 16 集団軍に属する歩兵戦闘部隊を派遣したのである。

では、なぜ中国の国連 PKO への参与に従来の人民解放軍派遣のパターンを変えていくのか。こうした人民解放軍派遣の新動向は習近平政権の軍事戦略とどのようにつながるのか。

本研究は、以上の問題意識に基づき、各公式資料をもとに、習近平政権の軍事戦略と人民解放軍側に焦点を当て、中国の軍事戦略の文脈における人民解放軍部隊の国連 PKO への派遣パターンの変化の原因を考察する。結論としては、国連 PKO は習近平政権の軍事戦略目標を実現するための「戦術」であり、これは、習近平政権の軍事戦略意図下で、人民解放軍の「能力」をさらに高めるために、人民解放軍派遣のあり方を変えていくようになるのである。